

群 教 セ	F12 - 01
	平24.246集

小学校歴史学習指導資料集

「ICT活用虎の巻 for the History」 の作成と活用

— 事象の特色や関連について考え、表現する力を育てる指導の充実を目指して —

長期研修員 長谷川 泰彦

《研究の概要》

本研究は、事象の特色や関連について考え、表現する力を育てる指導の充実を目指し、小学校歴史学習指導資料集「ICT活用虎の巻 for the History」を作成した。本指導資料集の授業プランに基づき、資料の読み取り及び表現する場面でICTを活用した授業を実践し、児童が資料を比較・関連付けてとらえる視点が具体的に分かり、課題解決に向け自分の考えをもてるようになること、考えを表現する活動が充実することを明らかにした。

キーワード 【社会－小 歴史 ICT 比較・関連付ける 表現 指導資料集】

I 主題設定の理由

小学校学習指導要領では、小学校第6学年の能力に関する目標に、「社会的事象の意味をより広い視野から考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てる」ことが明示されている。本県でも、平成24年度群馬県学校教育の指針において、「問いの解決に向けて、資料から必要な情報を取り出したり、それらを比較・関連付け・総合して社会的事象の特色や意味を説明したりするなど、調べたことや考えたことを表現する活動を充実させる」ことが示されている。これらをふまえると、歴史学習においては、児童が資料からの確に情報を取り出せるようにすること、取り出した情報を比較・関連付けてとらえられるようにし、考えを表現できるようにしていくことが重要である。

協力校の児童は、歴史上の人物の業績については、大まかに把握できている。しかし、その理解は断片的で、他のできごとと関連付けてとらえられていない。調べたり考えたりしたことを説明する際も資料の文章をそのまま読み上げてしまうなど、自分の考えを表すことは難しい傾向にある。そのため、考えを表現する活動が難しい状況となっている。これは、教師が、資料から必要な情報を読み取らせ、事象の特色や関連をとらえさせていくための支援が十分行えていないこと、児童に自分の考えを表現させる方法が分からず、児童の表現活動が十分行われていないことが原因と考えられる。

そこで本研究では、資料を読み取る視点に具体的に気付かせ、事象の特色や関連事象との結び付きをとらえさせるためにICTの活用を授業に位置付ける。さらに、児童が考えを表現する場面でICTを活用し、歴史的な事象について様々な考えに触れられるようにする。これらを行うことで、児童は、事象の特色や関連を明確にとらえて自分の考えをもつことができる。

以上のことから、小学校歴史学習において、資料から事象の特色や関連をとらえさせる方法と考えを表現させる方法を示した小学校歴史学習指導資料集「ICT活用虎の巻 for the History」を作成したいと考えた。この指導資料集を活用することで、歴史的な事象について考えを表現し深め合う活動が充実し、事象の特色や関連について考え、表現する力の育成が図れると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

資料を比較・関連付けてとらえさせるためのICT活用、児童の考えを表現しやすくするためのICT活用を示した小学校歴史学習指導資料集「ICT活用虎の巻 for the History」の作成と活用を通して、事象の特色や関連について考え、表現する力を育てる指導の充実を目指す。

Ⅲ 研究の見通し

- 1 「ICT活用虎の巻 for the History」に基づく授業実践において、ICTを活用して関連する部分を強調した資料提示を行うことによって、児童は資料を比較・関連付けてとらえる視点に具体的に気づき、課題解決に向けた考えをもつことができるようになるであろう。
- 2 「ICT活用虎の巻 for the History」に基づく授業実践において、ICTを活用して自分の考えを表現する活動を行うことによって、児童は考えを表現しやすくなり、充実した表現活動を図ることができるであろう。
- 3 1、2のような手だてを講じれば、教師にとって役立つ指導資料集を作成することができるであろう。

Ⅳ 研究の内容

1 基本的な考え方

歴史学習では、年表、絵図、写真、文書など様々な資料から事象の意味や相互の関係をとらえることが重要となる。そのためには、資料から情報を比較・関連付けてとらえさせ、歴史的事象の意味やつながりについての理解を深めていく必要がある。そうすることで、児童は、事象の特色や関連について自分の考えをもてるようになると思う。一方、児童が自分の考えをもっている、表現することに苦手意識を感じていることも多い。児童の考えを表現する活動を充実させるためには、説明や発表をする際に、考えたり表現したりするためのよりどころとなるものが必要であると思う。

そこで、「ICT活用虎の巻 for the History」では、資料を読み取らせる場面で、ICTを活用して資料を提示することにより、資料が示す特徴に着目させやすくし、比較・関連付ける視点を具体的にもたせて資料を読み取らせ、考えるきっかけがつかめるようにする。さらに、児童に考えを表現させる場面では、画面に映した資料を指し示しながら説明させたり、ノートやワークシートの記述を画面に映して発表させたりすることで、児童が自分の考えを表現しやすくなるようにする。

このように、ICTを資料の読み取りや表現活動に活用することで、事象の特色や関連について考え、表現する力を育てる指導の充実を図りたいと考える（図1）。

(1) 資料を読み取らせる場面でのICT活用について

ICT機器を用いることで、資料を「部分を拡大する」「一部をマスキングする」といった見せ方をすることができる。これにより、着目すべき点を明確に示し、比較・関連付ける視点を具体的にもたせることができると思う。また、このような提示方法によって資料を読み取らせるためには、「拡大」「マスキング」などのICT活用の効果を踏まえた発問が必要であると思う。そこで、本指導資料集では、ICT活用による資料提示に加え、その効果を生かすための発問を共に示していくこととする。この点が、本指導資料集が「虎の巻」と銘打つ所以である。

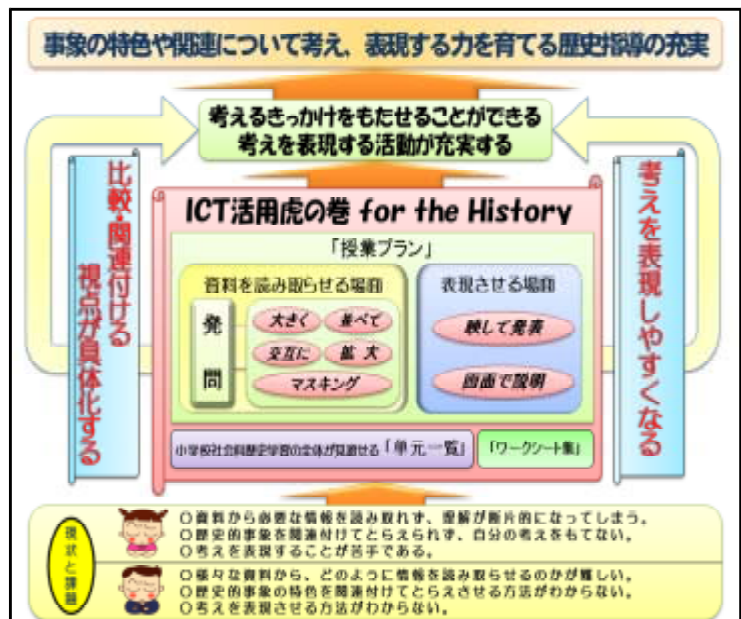


図1 研究構想図

(2) 表現する場面でのICT活用について

考えを表現する力はすぐに高まるものではない。本指導資料集では授業において、追究、まとめの場面を中心に考えを表現する場面を設定し、表現活動を繰り返す中で児童の力を高めていきたいと考える。

2 「ICT活用虎の巻 for the History」の概要

(1) 「ICT活用虎の巻 for the History」の構成

本指導資料集は、「単元一覧」「授業プラン」「ワークシート集」によって構成した。各資料は、どの項目から見ても関連する資料が参照できるようにHTML形式で作成し、各項目にリンクを設定した。また、各資料は印刷して参照できるようにPDF形式でも収録し、ワークシートについては、教師が加工して使えるようにワープロ形式でも収録している(図2)。



図2 「ICT活用虎の巻 for the History」の構成

(2) 「ICT活用虎の巻 for the History」の内容

① 単元一覧

「単元一覧」は、本指導資料集で作成した「授業プラン」を一覧表にしたものである。教師が活用したい授業プランをすぐに探せるように、各単元の授業の「タイトル」と「ねらい」、授業で使用する「ワークシート」を一覧表にして示した。

また、「授業プラン」「ワークシート」の各タイトルをクリックすると、それぞれが表示されるようにリンクを設定し、各項目ごとに参照できるように作成した(図3)。

単元	授業プラン	授業のねらい	ワークシート
7 明治維新と大日本帝国憲法	① 明治時代の小学校	江戸時代と明治時代の変化の様子から、明治維新の改革が社会にどのような変化をもたらしたのに関心を持つ。	
	② 開国から倒幕へ	黒船の来航からの混乱の中で、幕府より強い政府が必要と感した若い武士たちが、明治維新を進めたことを理解する。	開国から幕府がたおれるまでを調べよう
	③ 富国強兵	大久保利通らが進めた明治政府の政策について調べ、富国強兵でめざした国づくりについて考えたことを表現する。	富国強兵の解説をしよう
	④ 文明開化	文明開化により、人々の生活が近代化し、意識にも変化が現れたことを理解する。	
	⑤ 自由民権運動	政府への不満が反乱から国会開設を求める自由民権運動へ変わっていったことを理解する。	弁士の演説
	⑥ 大日本帝国憲法と国会の開設	大日本帝国憲法の特徴、国会開設への動きと国会、選挙の仕組みについて調べる。	
	⑦ 人物関係図をつくって発表しよう	明治の主要な人物を選び、その人物と他の人物、出来事との関係を図にまとめ、分かりやすく表現する。	人物関係図

図3 単元一覧(抜粋)

② 授業プラン

「授業プラン」は、一単位時間の授業の詳細を具体的に示したものである。一般の指導案に近い形で「本時のねらい」、授業で扱う「資料」、「展開例」を掲載し、教師が授業のねらいや流れを簡単に確認できるように示した(次頁 図4-A)。

「資料を読み取らせる場面でのICT活用と発問例」では、資料を「読み取る視点をもたせる」、「比較・関連付けてとらえさせる」ポイントを示した。ICTを用いて資料をどのように映すのかイラストや授業の写真を掲載するとともに、「拡大」「マスキング」などの提示方法のキーワードをロゴ化して示し、ICTを活用した資料提示場面をイメージしやすくした(次頁 図4-B)。「発問例」は、ICTを活用した資料の見せ方を踏まえて作成し、発問と資料提示によって、児童に「気付かせたい点」や「とらえさせたい点」、発問によって促される「児童の思考」などを示した(次頁 図4-C)。また、プランによっては、資料の見せ方をイラスト等で掲載し、拡大したりマスキングしたりする部分が具体的に分かるようにした(次頁 図4-D)。

「表現させる場面でのICT活用」では、児童が考えを表現する際に、どのようにICTを活用させるのかを示した。活動のイメージが把握できるように、ICTを用いた説明や発表の様子を写

真等で掲載した。また、授業の内容に応じて、児童の発表例なども示している（図4-E）。

「活用メモ」では、本時にかかわるICT活用についての注意点やICT活用による資料提示や表現活動をさらに充実したものにする方法を簡単に紹介した。また、「拡大」「マスキング」などする際、使用するICT機器の留意点等を示した（図4-F）。

A 授業展開例

「本時のねらい」「資料」「展開例」を掲載し、授業の流れを簡単に確認できるようにした。

B 資料を読み取らせる場面で

ICT活用による「読み取る視点をもたせる」「比較・関連付けてとらえさせる」資料提示のポイントを示した。資料提示の様子が分かるような写真やイラスト等を掲載し、教師が活用のイメージをもてるようにした。

提示方法のキーワードをロゴ化して表示

C 発問例

資料の見せ方に応じた発問例、発問によって「気付かせたい点」「とらえさせたい点」促したい「児童の思考」などを示した。

E 表現させる場面で

児童にどのようにICTを活用させるのかを示した。「発表例」や「説明や発表の様子が分かるような写真」を掲載し、児童のICT活用のイメージをもてるようにした。

D イラストで

拡大、マスキング等の部分の分かりやすくなるように、プランによっては、資料の見せ方をイラスト等で掲載している。

F 活用メモ

使用するICT機器の違いによる提示上の注意、資料提示や表現活動におけるICTの活用をより効果的なものにする方法や例などを紹介した。

図4 授業プラン例 7-① 明治維新と大日本帝国憲法「明治時代の小学校」

③ ワークシート集

「ワークシート集」は、授業で扱うワークシートをまとめて収録したものである。「授業プラン」とリンクを設定し、どの授業で使用するのかを具体的に分かるようにした。また、ワークシートは教師が加工して使えるようにワープロ形式でも収録している。さらに、歴史資料を扱う上での著作権等を考え、絵画や写真資料などをワークシートに掲載する際の注意事項も示した（図5）。

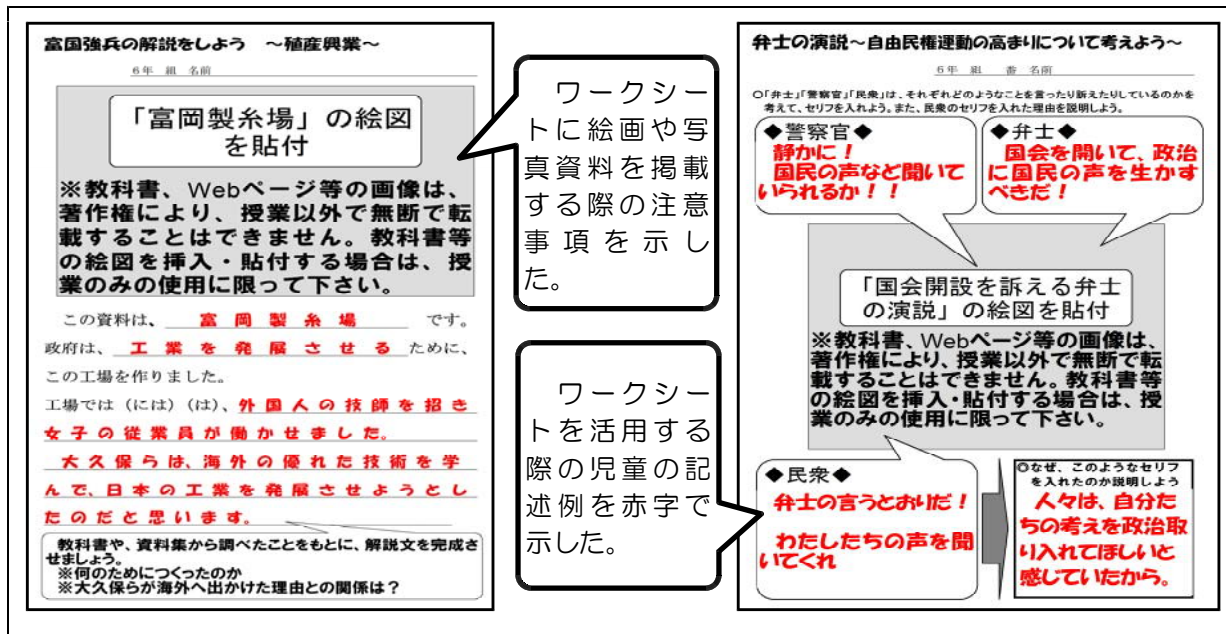


図5 ワークシートの例

V 研究の計画と方法

1 実践の計画と方法

(1) 授業実践の概要

対象	協力校 小学校6年生 17名
単元	明治維新と大日本帝国憲法
実践時期	平成24年10月15日(月)～10月26日(金)(全7時間)
授業者	長期研修員 長谷川泰彦
目標	○黒船の来航、明治維新、文明開化、大日本帝国憲法の発布とそれらにかかわる人物の働きや代表的な文化遺産から学習問題を見だし、地図や年表、文化財等の資料を活用して調べたことをまとめられるようにする。 ○我が国が欧米の文化を取り入れつつ、廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、近代化を進めたことを理解するとともに、それらにかかわる人物の願いや働き、代表的な文化遺産の意味について思考・判断したことを適切に表現できるようにする。

(2) 検証計画





検証の視点	検証の方法
ICT活用虎の巻 for the History の授業プランに基づき、ICTを用いて関連する部分を強調した資料提示を行った授業は、児童に、資料を比較・関連付けてとらえる視点を具体的に気付かせ、課題解決に向けた考えをもたせる上で有効であったか。	・授業分析 ・ワークシート分析
ICT活用虎の巻 for the History の授業プランに基づき、自分の考えを表現する活動にICTを活用した授業は、児童の考えを表現しやすくし、充実した表現活動を図る上で有効であったか。	・児童へのアンケート分析
ICT活用虎の巻 for the History は、小学校社会科歴史学習において、事象の特色や関連について考え、表現する力を育てる指導を充実させる上で有効な指導資料集となったか。	・教師への聞き取り調査 ・教師へのアンケート分析

2 授業実践

(1) 第1時 明治時代の小学校

主な学習活動	「ICT活用虎の巻 for the History」に基づいたICT活用場面		
ねらい	江戸時代と明治時代の変化の様子から、明治の急激な変化に関心をもつ。		
○江戸時代の寺子屋の様子と明治時代初めの小学校の样子の違いに気付く。	資料を読み取らせる場面でのICT活用		
	資料提示	発問	児童の反応
	寺子屋の先生と明治時代の小学校の先生をマスクングで隠して提示し、子どもの学ぶ様子を比較させる。	寺子屋と明治の小学校の子ども達の勉強している様子の違いを見つけよう。	 寺子屋の子どもは遊んでいるみたいだ。  明治の学校の方は、みんな前を向いて勉強しているね。  寺子屋の先生は、勉強を教えている感じがする。  明治の先生は、勉強を教えている感じがする。
	マスクングを取り、寺子屋、明治の先生をそれぞれ拡大して提示する。	 二人の先生の大きな違いは何だろう。	
わずか十数年の間に、社会にどんな変化が起こったのだろう。			
○明治になって十数年の間に、どのような変化があったのか、資料をもとに考え発表する。	表現させる場面でのICT活用 ～画面で説明～		
	「寺子屋の建物」「小学校の建物」、「寺子屋の教科書」「明治時代の小学校の教科書」の資料をもとに、変化の様子について考えさせ、資料を画面に映して、考えたことを説明させる。	 明治の小学校に比べ、寺子屋の先生は、教えている感じがしません。十数年間で、学校の制度が大きく変わったと思います。	
		 寺子屋と明治の小学校（の建物）を比べると、明治の方が校舎が洋風になっているので、外国の技術を取り入れるようになったのではないかと思います。	

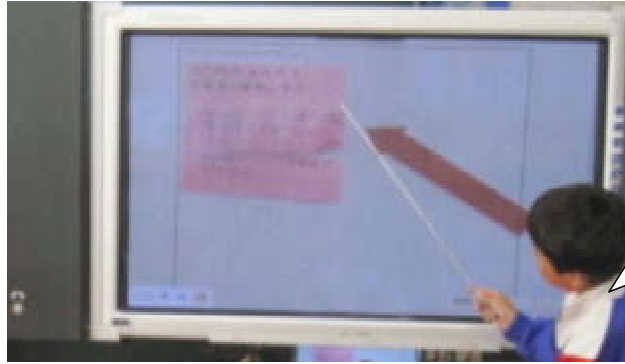
(2) 第4時 文明開化

主な学習活動	「ICT活用虎の巻 for the History」に基づいたICT活用場面		
ねらい	文明開化により人々の生活が近代化し、意識にも変化が現れたことを理解する。		
○絵図「日本橋の近くの様子」から、時治時代の特徴を見付ける。	資料を読み取らせる場面でのICT活用		
	資料提示	発問	児童の反応
	江戸と明治の町をICTで交互に見せることで、全体の雰囲気の違いに気付かせる。	江戸の町と明治の町を比べてみると、どんなところが違うだろう。	 明治の方が華やかな感じがする。  同じ国とは思えないね。
	注目すべき視点をもたせ、児童の気付いた部分を拡大し、文明開化の特徴をとらえさせる。	 明治ならではのものを見つけよう。	 服装や髪型が違うね。馬車も明治ならはかな？
文明開化は、人々の生活にどのような変化をもたらしたのだろう。			

○調べたことをもとに、文明開化がもたらした影響について考え発表する。

表現させる場面でのICT活用 ～映して発表～

KJ法で考えをまとめ、ワークシートを電子黒板に映して発表する。中心となる意見、関連する考えを拡大して紹介させる。



文明開化で、人力車や鉄道もできて生活が便利になった。でも、日本らしさもなくなっている。

(3) 第5時 自由民権運動

主な学習活動 「ICT活用虎の巻 for the History」に基づいたICT活用場面

ねらい 政府への不満に対する行動が反乱から言論へ変わっていったことを自由民権運動の広がりに関連付けてとらえ、政府や民衆の立場からそれぞれの思いを考え表現する。

○政府への不満が、武力から言論へ変わっていったことをつかむ。

資料を読み取らせる場面でのICT活用

資料提示

発問

児童の反応

西南戦争の政府軍側をマスキングして提示することで、西郷軍の武器などに注目させ、どんな敵と戦ったのか考えさせる。

西郷軍は、どんな武器を使っているだろう。

政府軍は、どんな武器を持っているのだろう。

刀と槍を持っているぞ。

もっとすごい武器を持っているのかな。

マスキングを取り政府軍の武器や軍服を拡大し、政府軍と西郷軍の戦いの勝敗を考えさせる。



政府軍と西郷軍、勝ったのはどちらだろう。

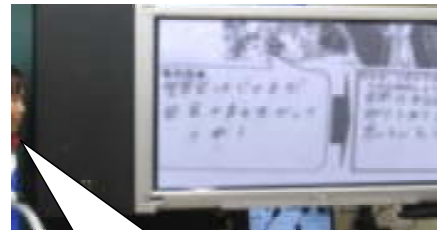
政府軍の持つ銃には、刀や槍ではかなわないんじゃないかな。

政府に不満をもつ人々は、どんな行動を取っていったのか調べよう。

○政府、民衆の思いをそれぞれの立場で考え表現する。

表現させる場面でのICT活用 ～映して発表～

絵図「弁舌の中止を求める警察官」について、警察官、民衆のセリフを考えさせ、考えた「セリフ」とその理由の記述を拡大して説明させる。



ワークシートの記述

◆民衆◆
**警察官はじゃまだ！
国民の声を生かしてくれ！**

◎なぜ、このようなセリフを入れたのか説明しよう
民衆は、自分たちの意見を取り入れてほしいと思っていたと思うから。

民衆のセリフは、「警察官はじゃまだ。国民の声を生かしてくれ。」です。民衆は自分たちの意見を政治に取り入れて欲しいと思っていたので、このセリフを言ったんだと思います。

VI 研究の結果と考察

1 ICT活用虎の巻 for the History の授業プランに基づき、ICTを用いて関連する部分を強調した資料提示を行った授業は、児童に資料を比較・関連付けてとらえる視点を具体的に気付かせ、課題解決に向けた考えをもたせる上で有効であったか。

本研究では、資料から取り出した情報を比較・関連付けてとらえることが、事象の特色や関連について自分の考えをもつことにつながると考える。この考えに基づき、まず、児童が資料を比較・関連付けてとらえる視点をもつためには、「資料の特徴に注目しようとする」「関連する出来事とのつながりをとらえようとする」などの意識が高まることが重要であると考え、実践の前後にアンケート調査を実施し、実践の効果を検証した。

調査の結果、「歴史の資料からいろいろな特徴や共通点、違いを発見できる（できた）」において、事前調査では「あてはまらない」「あまりあてはまならない」と回答していた児童が、ICTを活用した授業実践後には、「あてはまる」「ほぼあてはまる」と回答が変わった。また、「できごとのつながりをとらえながら学習している」の項目においても実践後には、「あてはまる」「ほぼあてはまる」と、ほぼ全員が回答している（図6）。このような児童の変容から、ICTを活用した授業実践によって、「資料から情報を読み取ることができた」「つながりをとらえながら学習できた」という意識を高めることができたと考える。特に図6の㊦㊧㊨の児童は、ICTを用いた資料提示により、資料から読み取った情報が他の出来事とどのようにつながっているのかをとらえることができた実感していると考えられ、この点から、資料を比較・関連付けてとらえる視点をもたせることができたと言える。

次に、このような比較・関連付けたとらえ方が、児童に疑問や学習課題解決のための考えをもたせることにつながっているかについて、実践前後の児童の意識を比較した。調査項目「（絵図や写真などの）資料を読み取るとき、何を表しているのか、なぜ、こうなっているのか、のような疑問を感じる」においては、授業実践後、全ての児童が「あてはまる」「ほぼあてはまる」へと回答が変わった（図7）。また、「歴史の授業で感じた疑問や学習課題について、その答えを予想しながら学習している」の項目においても、実践後には「あてはまる」「ほぼあてはまる」への回答が増加した（図8）。さらに、課題に対する考えを記述した児童のノートには、資料提示で強調した部分を比較・関連付けてとらえたことが、疑問や自分の考えとして記述されている。「授業プラン」に示した、ICTを活用した資料提示と発問例は、児童に資料を比較・関連付けてとらえさせるとともに、読み

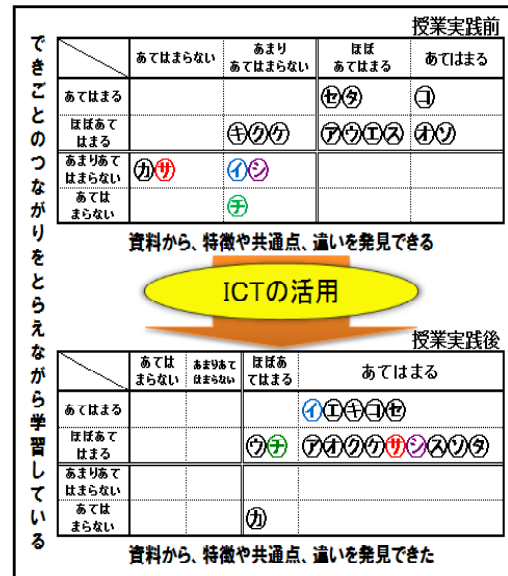


図6 実践前後の資料の読み取りに関わる意識の比較

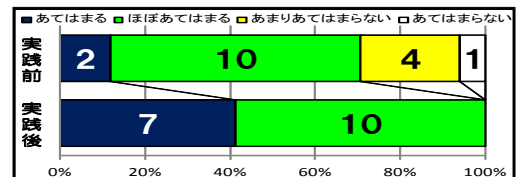


図7 資料を読み取るとき「何を表しているのか」「なぜ、こうなっているのか」のような疑問を感じる

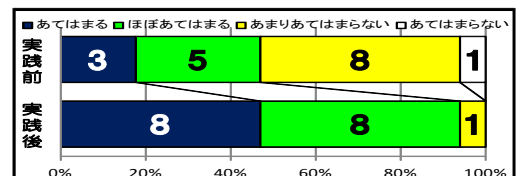


図8 歴史の授業で感じた疑問や学習課題について、その答えを予想しながら学習している

〈資料読み取り後の児童の記述〉

- ・寺子屋と明治の小学校を比べると、明治の方の建物が洋風になっているので外国の技術を取り入れているのではないかな。
- ・欧米諸国に追いつこうとすすぎて、生活が不便になってしまった人もいるのではないかな。

〈児童の感想〉

- ・電子黒板で資料を読み取ると、とても読み取りやすい。
- ・拡大できて、関係のある事柄が分かりやすい。
- ・マスキングして見せられると、何がでてるだろうと不思議な気持ちになって、とても楽しみ。
- ・資料の一部が隠れていて、予想を立てられる。
- ・人物が行ったことや目的がよく分かった。

取ったことについての疑問や解決のための考えをもたせる学習の展開を図ることにつながった。授業後の感想を見ても、資料の読み取りやすさやできごとのつながりのとらえやすさ、学習に対して具体的な考えをもって取り組めたことについての記述が多く見られた。

以上のことから、ICT活用虎の巻 for the History の授業プランに基づいた授業実践は、児童に読み取る視点をもたせ、資料を比較・関連付けてとらえさせるとともに、課題解決に向けた考えをもたせる上で有効な指導であったと考える。

2 ICT活用虎の巻 for the History の授業プランに基づき、自分の考えを表現する活動にICTを活用した授業は、児童の考えを表現しやすくし、充実した表現活動を図る上で有効であったか。

「考える、表現する」ことについて、ICTを活用した授業により、児童の意識の変化が見られるかを検証するために実践前後にアンケート調査を実施した。

調査項目のうち、「調べたことや考えたことを説明したり発表したりすることに自信がある（もてた）」の項目では、実践前に「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と11人が回答したが、実践後はこの11人のうち9人が「あてはまる」「ほぼあてはまる」と回答している（図9）。ICTを活用して説明や発表をすることで、自分の考えを表現することに自信をもち、回答が変わったことが分かる。

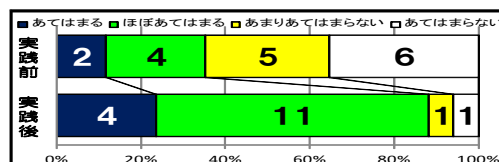


図9 調べたことや考えたことを説明したり発表したりすることに自信があります

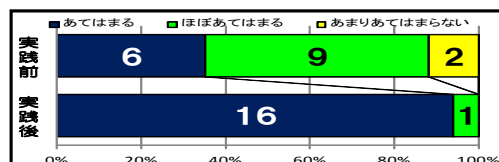


図10 発表するときに写真や絵図などの資料を見せながら発表する方がうまく説明できます

また、「発表をするときに写真や絵図などの資料を見せながら発表する方がうまく説明できる」の項目では、図10のように「あてはまる」の回答が6人から16人と大きく変化している。これは、実践前に「ほぼあてはまる」「あまりあてはまらない」と回答した11人のうち10人が、実践後には「あてはまる」と回答したことが要因である。ICTを活用した表現活動を授業で経験したことにより、実践前にも「発表しやすいだろう」と感じていたことが、具体的な実感となって児童にとらえられた結果であると言える。

説明や発表にICTを用いた感想からは、児童が、ICTを用いて表現することについて、表現のしやすさや考えを正確に伝えられることを感じている様子が見られた。また、考えを表すことに意欲的になったり、より分かりやすく表現できたことを実感し表現活動に自信をもったりしている児童も見られた。さらに、発表を聞く側の感想には、分かりやすさや、他の考えに対する疑問や共感を感じている記述が多く見られた。児童の考えを表現しやすくするために、「授業プラン」では児童が作成したノートやワークシート等をもとにICTを用いて発表する授業構成とした。ICTの活用により、視覚的に自他の考えの違いや共通点が具体的にとらえられることによって、児童は、自分の考えに自信をもって発表することができるとともに、他の考えに対しても疑問や共感をもつことができたと言える。

以上のことから、自分の考えを表現する活動にICTを活用した授業は、児童の考えを表現しやすくし、充実した表現活動を図る上で有効であったと考える。

〈説明や発表にICTを用いた感想〉

- 自分が書いたものを映して発表するので発表しやすい。
- 声だけを聞いていて分からない人も、画面を見て納得してくれると思った。
- 映して発表（説明）すると、どんな雰囲気や話せばよいのかなどが分かる。
- 絵があることで詳しく説明できる。
- 発表しながら、分かりやすくできる。
- 画面に出る字を拡大できて見やすくなり、発表しやすい。自分から発表したい気持ちになる。
- 電子黒板で発表すると、緊張感がなくなり、リラックスして発表できた。
- 電子黒板の授業は、説明や発表が楽しくできる。
- 発表の時、電子黒板に文字が映っているから分かりやすいし、安心する。

〈ICTを活用した説明や発表を聞いた感想〉

- 説明を聞いていると、最初に言ったことが分からなくなるけど、電子黒板を使うと分かりやすかった。
- 普通の発表だと、聞き逃してしまうときがあったけど、電子黒板を使うと聞き逃しても発表中は映っているから、分かりやすかった。
- 友だちの意見と自分の意見の同じところ、違うところが電子黒板で発表すると分かりやすい。
- 他の班の発表内容がよく分かり、自分の意見にも取り入れたいことがあり疑問もわいた。
- 発表を聞いていると、なるほどと思ったりして、こういう考え方もあるのかと思う。

3 ICT活用虎の巻 for the History は、小学校社会科歴史学習において、事象の特色や関連について考え、表現する力を育てる指導を充実させる上で有効な指導資料集となったか。

ICT活用虎の巻 for the History の授業プランを協力校の教師に配布し、ICTの活用や授業構成が、「考え、表現する力」を育てることに結び付いたものになっているか、アンケート及び聞き取りによる調査を行った。その結果、全員の教師から肯定的な回答を得ることができた。

有効性を示す具体的な意見として、「ICTを活用した資料提示が、児童の思考の手助けになり考える視点が具体化する」「表現力を育てるために資料を効果的に使えるように工夫された授業構成になっている」「資料の中で注視させたい箇所や発問等が示されており、指導する側にとっては使いやすい」などの評価を得た。さらに、「教材研究の時間短縮につながると思う」「教師の好みでアレンジすることもできるのでよい」という感想が得られた。

このような結果から、ICT活用虎の巻 for the History は、小学校社会科歴史学習において、事象の特色や関連について考え、表現する力を育てる指導を充実させる上で有効な指導資料集となったと考える。

〈教師の評価及び感想〉

- 拡大などを行うことで意図した場所に着目させることができ、的確に資料を見せることができる方法が示されていてよい。
- 授業プランが、一時間の授業の中で、表現力を育てるために資料を有効に使えるように工夫された構成になっている。
- 気付いて欲しいところをすぐに映し出すことができ、子どもが考える視点が具体化して思考の助けになる。
- 資料の中で注視させたい箇所や発問等も記入され指導する側にとって使いやすい。自分もこれを使って指導してみたいと思った。
- 資料の中のどこを見ればいいのか分からない子どもにも有効であると思う。
- 社会科の教材研究にはすごく時間がかかる。ポイントをおさえた授業プランがあればそれをもとに自分で考えられるのでとても助かる。
- 先生方が、好きなようにアレンジすることもできそうなのでよい。
- 実際の授業にすぐに使えるプランである。

VII 研究のまとめ

1 成果

- ICTを活用して資料提示を工夫したことで、児童は、資料から読み取った情報を比較・関連付けてとらえられるようになり、課題解決に向けた考えをもって追究やまとめに取り組むことができた。
- 画面に資料を映して説明、発表する活動を設定したことが、自分の考えを表現することへの自信をもたせることにつながり、児童の表現活動への意欲を高める結果となった。
- 歴史の授業においてICTを活用した資料の読み取りが児童の思考、表現に結び付くような構成を授業プランに示すことができた。

2 課題

- 児童が比較・関連付けてとらえるポイントを一層明確に示すなどして、指導資料集「ICT活用虎の巻 for the History」の内容の改善・充実を図っていきたい。
- 考えをまとめる際に使用したワークシートを思考と表現のつながりを重視して改善していきたい。

〈参考文献〉

- 文部科学省 編著 『小学校学習指導要領解説 社会編』(2008)
- 群馬県教育委員会 編著 『平成24年度 学校教育の指針』(2012)
- 小原 友行 編著 『「思考力・判断力・表現力」をつける社会科授業デザイン 小学校編』明治図書(2009)